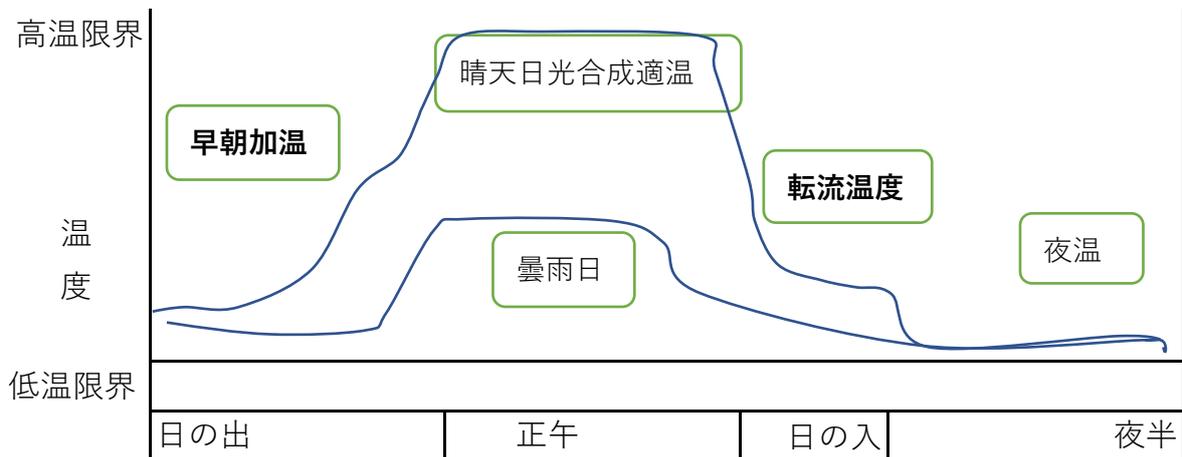


今後の苺栽培管理について（厳寒期）

R4.10

アグリ技研(株)

1.複合環境制御について



①芯葉の展開遅れ（芯葉色濃場合・小葉の場合）対策

- (1)早朝加温（午前5時～8時）10～12℃の確保「生育促進」
- (2)午前中～正午までに28℃前後までに確保「光合成作用活性化」
- (3)前夜温（午後6時～9時）まで18～20℃の確保「養分転流促進」
- (4)電照時間の調整
- (5)CO₂の日中焚き「400～450ppm」 最適濃度は800ppm～1000ppm
- (6)フショクフル10kgの灌水処理

②日中晴天でCO₂を十分供給した場合の対策

- (1)前夜温（午後6時～9時）まで18～20℃の確保「養分転流促進」
- (2)夜温は凍害抑制温度の確保（通常夜温設定6～7℃）節油効果

2.施肥について 「玉伸びを良くする・株疲れ抑制」

- (1)カリをチッソに対して1.5倍以上の施肥とする。
◎5日置きに①カリとを500g灌水する。（10日置きは1kg）
*液の場合は、ウルル18号10kg
- (2)10日置きにアミクエを10kg灌水する。
- (3)微量要素まで総合的にはトケル養液配合1号の処理も省力的です。